

景況実感調査(2020年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① もともと建築需要の落ち込みで販売数量は低水準だったが、4月は新型コロナの影響で取引先の活動水準が落ちてきたことから、販売量も更に落ちてきた。
- ② 4月は新型コロナウイルスでの需要減少の影響が中旬以降、顕著に表れてきた。ウイルスの終息なくして需要の回復なし。
- ③ 工事中断の余波がこれから出てくると考える。緊急事態宣言の延長よって経済活動の停滞は必至のため、これからが正念場。販売量は30~40%落ちる可能性あり。
- ④ 実働21日と前月と変わらずも売上、数量とも5%以上の落ち込みとなった。製造業、建設もコロナの影響を受け経済活動が規制される中、我々の業種にも納期、工期の延期要請が通知され始めた。加工、デリバリーといった商流の末端を担う我々はテレワークで処理出来ない部門が多く、ひたすら感染の収まるのを待つしかない。

中板

- ① 新型コロナ禍は全世界に及び、4月の各指標はリーマンショックを超える下落となった。今年が高炉の相次ぐ厳しい表明も続き、鉄鋼流通の各段階での再編や流通の仕組みそのものの変革が求められてくるのではないかと。何年か後に“あのコロナの2020年が大変革の始まりだった”と回顧されるのだろうか。20年30年かかるであろう大変革がコロナにより一気に早まるか。

厚板

- ① 大不況に入った。新型コロナウイルスの影響が顕在化して建機、産機のユーザーが一時帰休の実施を含む大減産に入っていることから受注は激減した。回復に関する展望、兆しも現状は見えていない。これを受けて当社は4月を4勤3休にて操業し、5月も同態勢を継続中である。素材販売も前年同月比にて半減している上に引合いも少ない。土木案件は横這いにて推移している。
- ② 今後さらに悪化する見通し。
- ③ 建材向けも建産機と同様に低位で推移。厚板店売りは価格も下落し、崩壊状態である。

— 舟安 开 鋼岡

- ① 12月以降続く営業低迷はコロナ由来ではないが、4月13日に清水建設が現場を閉鎖し、他のゼネコンも追随してからの状況は間違いなくコロナによるもの。ということは、5月11日から現場再開となれば少なくとも現状よりは荷動きは好転する。5月中にコロナ騒動が収束し、6月から復興の槌音高く反攻できると勝手に決めている。

II 开 鋼岡

- ① 3月の倉出しは横這い。前年同月比はマイナス。一部の現場は中断していたが、土木向けの出庫があり横這い。市況は弱い、再開される現場もあり現状の市況維持に努める。
- ② 新型コロナウイルスの影響による需要減退が懸念されたが、季節的不需要期を脱し

建築関係は堅調に推移したと思われるが、連休明けは落ち着いた状況が続いており、4月の反動が心配。価格も上値がどんどん下がっており採算面は苦しい状況。

異形棒鋼

- ① 政府の緊急事態宣言により取引マーケットが縮小して、売上は減少。メーカー、商社はテレワークにて営業活動を自粛しており、鉄鋼需給に関わる情報が無いので商売の環境は悪い。
- ② 4月は緊急事態宣言が出たので社員半分で対応し、5月は時短と休日の組合せでやっている。単価は弱含み横這い。数字は直近で3割悪いが、思ったより滞りなく回っている。

平鋼

- ① 荷動きはGW前の駆け込みは全く無く、GWが明けても大きく減っている。価格は4月に下がったが、引合い自体が少ないため横這いで推移すると思われる。緊急事態宣言中、また解除されても暫くは厳しいのではないかと。
- ② コロナによる市場低迷の中、GWも重なり荷動きは最悪な状況。コロナ収束まで我慢を続けるしかないが、今後の見通しもつかず不安は募るばかりだ。

車量用鋼

- ① 全体的に商売に活気が無く苦しいが、先が見えない状況はもっと苦しい。
- ② 緊急事態宣言を受け関東の大型物件が中断となり、その影響により受注が激減。先が読めない状況。
- ③ 先月と同様に加工が出来ず。
- ④ 工場の操業に支障。臨時休業(部門ごとに)。営業を含めた事務系は在宅勤務比率を上げて対応中。

鋼管

- ① 全く営業展開できず受注残の消化も少なくなり、来月は史上最低の出荷状況が予想される。

構造用鋼

- ① 需要環境は新型コロナウイルス感染拡大の影響により日を迫うごとに悪化。自動車メーカーの生産停止を始め建機、産機等ほとんどの分野で需要が落ち込んでいる。高炉メーカーも一部休止しており、厳しい状況が続くそう。当面、弱含みの推移が見込まれる。

磨棒鋼

- ① 店売り品は地方流通向けを中心に堅調な出荷を続けていたが、ここに来て失速感が明確になってきた。紐付き品についても、自動車だけでなく建機向けも調整局面に。5月以降は輪番で従業員の一時帰休を開始する予定。

その他

<二次製品>

- ① 4月は減少しているが、5月以降打ち合わせが出来ず見通しが立たない。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生量は1月から減少し続けている。輸出向けや国内電炉メーカーからの引合いはあるが、とにかく集荷に苦勞しているため、なかなか売上が上がらない。

<金属表面処理加工>

- ① 4月、紐付きは計画通り。物件物は客先の操業調整により納期延期。スポットの扱量は3割減となった。外注先を使つての工事の売上があつたため、売上高は横這いであつたが、工場の稼働率は約20%の減少となった。5月も自肅要請期間延長により4月と同様の稼働状況を予測。何よりもコロナ収束まで社員の安全を第一に考えて、5月も変則勤務体制を継続。